ISSN 1345-3580

Glocal Tenri

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.26 No.7 July 2025

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

7

CONTENTS

・巻頭言
神話と科学
／井上 昭洋 1

・天理教の異文化伝道と「文化」の「翻訳」（18）
ヨーロッパにおける天理教の伝道の諸相⑦
／加藤 匡人 2

・台湾の社会と文化―天理教伝道史と災害民族誌（26）
台湾伝道のこれまでとこれから
／山西 弘朗 3

・ライシテと天理教のフランス布教（最終回）
21 世紀のライシテと天理教のフランス布教 ⑩
／藤原 理人 4

・イスラームから見た世界（35）
イスラームの信仰を支えるモノやツール②
／澤井 真 5

・日本占領期の香港―植民地研究の視点から―（4）
日本による植民地統治の拡大：朝鮮統治の開始
／山本 和行 6

・2025 年度公開教学講座：「元の理」の学術的研究とその新しい展開を求めて（1）
第 1 講：「元の理」研究入門
／金子 昭 7

・おやさと研究所ニュース 8
第 377 回研究報告会（5 月 22 日）／2025 年度公開教学講座のご案内

巻頭言

神話と科学

おやさと研究所長 井上昭洋 *Akihiro Inoue*

人類の進化史は、最古の人類である猿人（サヘラントロプス、ラミダス猿人、アウストラロピテクス）から、最初のヒト属である原人（ホモ・エレクトス）、その系統は途絶えたが現代人の DNA に痕跡を残す旧人（ネアンデルタール人）、そして新人（ホモ・サピエンス）へと続く。もちろん、技術革新や新発見があれば、人類史は書き換えられる。私の高校時代にはネアンデルタール人がホモ・サピエンスに進化したと教えられたように思うが、分子生物学の進展により、現在の学説では両者は別種で共通の祖先から分岐したとされる。また、大学時代に教わった最古の人類は約 300 万年前のアウストラロピテクスだったが、大学院で人類学を学んでいた頃にはラミダス猿人の発見があり、人類史は約 440 万年前まで遡ることになった。現在では、約 700 万年前のサヘラントロプスが最古の人類ということになっている。

ところで、私が高校生の頃、あるクラスメートが「天理教の教えが正しいのなら、かんろだいの下を掘ったら、最古の人類の化石が出てくるはずだ。」と冗談めかして言ったことがある。かんろだいの据えられた「ぢば」は人間宿し込みの地点であると教えられ、人類誕生の地と紹介されることも多い。しかし、最初に人間が産み下ろされたのは奈良初瀬七里の間、次いで産み下ろされたのは大和の国中と伝えられるので、正しくは「奈良県内で最古の人類の化石が出土しないとおかしい」と彼は主張すべきだったのかもしれない。

次元の異なる神話的思考と科学的思考をわざと混同させるかのような彼の問いかけは、建設的に言い換えるならば、あなたは天理教の「元の理」をどのように解釈するのか？という問いになるだろう。それは、形質人類学的知見（人類進化史の学説）と天理教教理（「元の理」に説かれる人間の誕生）のどちらが正しいのかを問うていると考えることもできるし、そうでなければ両者の整合性（両者が互いに矛盾せずに成立する可能性）を問うものと言える。

神話はある社会において“真実”と受け止められている話であり、現実の様々な事象について、その根拠が示されている話である。神話の中で語られる出来事は、単なる“過去”の出来事ではなく、今日の諸々の事物や事象を秩序づけ意味づけてくれる出来事なのだ。創世神話であれば人間や世界がどのようにして生まれたのかについて説明することで、現在の人間の存在を意義づける。一方、科学は客観的な事実や法則を論理的に確定し実証しようとする。この客観的な事実・法則こそが科学にとっての“真実”である。形質人類学や考古学などの学問は、人類がいつどこで生まれたのか、どのように過ごしてきたのかを明らかにすることで、現在の人類を過去から未来に続く人類史の中に位置づける。

創世神話が象徴的な物語を通して人間の存在理由について説いているのに対し、形質人類学は実証的に人類の起源や進化のプロセスについて明らかにしようとする。両者は同じヒトの誕生と歴史について語っているように見えるが、異なるパラダイムにおけるヒトについての説明なのだ。また、“真実”として語られる神話は人間が意図的に改変することはできず、その“真実”は不変である。一方、科学の法則や学説は新たな証拠や発見によって常に修正を求められる。科学の“真実”を真実たらしめているのはこの可変性である。

このように神話の“真実”と科学の“真実”が異なることが分かれば、科学における新たな知見によって神話がいかに真実であるかを証明しようとするスタンスは間違っていることに気づくだろう。また、科学の行き着く先を神話が先取りしているわけでもない。仮にかんろだいの下から最古の人類の化石が発見されても、「元の理」の正しさが証明されることにはならないのである。これがあのクラスメートの問いに対する答えになるだろうか。